令和元年度　後期常設展
三猿文庫 開設 100 年記念

郷土雑誌の逸品たち

はじめに

令和 2 年(2020 年)は、三猿文庫が諸橋元三郎によって大正 9 年(1920 年)に開設されてから 100 年の節目にあたります。

諸橋は多彩な分野にわたる資料を収集し、郷土の文化を支えました。今回の常設展は、そのコレクションの中から郷土に関係する雑誌を展示し、その出版等に関わった人々にも触れつつ、郷土の文化遺産というべき三猿文庫の逸品を紹介します。

三猿文庫とは…

三猿文庫は、諸橋元三郎【明治 30 年(1897 年)―平成元年(1989 年)】によって開設された文庫です。大正 9 年(1920 年)、早稲田大学卒業後に帰郷した諸橋は、家業の「釜屋」(いわき市平五町目)の会計を担当するかたわら、地域に密着した資料を集め、「三猿文庫」と名付けました。

文庫名は、『見ざる・聞かざる・言わざるの三猿の教えは、逆説的には大いに見分をひろめ、知識を涵養(かんよう)すべきであるという哲理』であることに由来し、その特徴は、いわき地域の出版物や全国の近代雑誌創刊号、宮武外骨や山村暮鳥の著作物といった多種多様な分野にわたっていることにあります。

平成 14 年(2002 年)、三猿文庫資料はいわき市に寄贈され、同 19 年(2007 年)度に図書館の所管となり、開架可能な地域関係資料を提供する三猿文庫コーナーを、いわき資料フロアに設置し、現在に至っています。

諸橋家 三猿文庫の内部の様子　いわき市平五町目。平成 4 年(1992 年)10 月 撮影。

展示資料

『三猿文庫　諸橋元三郎と文庫の歩み』
平成 13 年（2001 年）10 月
いわき市立草野心平記念文学館 // 編集・発行

「三猿文庫 蔵書票」
4 種類中の昭和時代に使用されていたものを展示。

いわき総合図書館
三猿文庫コーナー

大正時代

※掲載した雑誌の号数・出版年・編集・発行は、
本展で展示した雑誌の情報です。

『風景』 創刊號　大正 3 年（1914 年）5 月　　新詩研究社 // 編集　　清光堂 // 発行

『風景』は、詩人・山村暮鳥が設立した「新詩研究社」が編集を行った詩誌です。

山村は、創刊号巻末の「消息」で、「不可能を可能とするのである。『詩作の傍、雑誌も作るといふ事は中々苦労の多いものです』と三木氏(※)は同情してくれた。ほんとにさうだ。(中略) 兎に角、自分は戦ふ覚悟である。倒れるまで。(中略) 街の本屋の店頭を第一ばんに飾りたい。」と発刊の苦労や意気込みを綴っています。

※三木氏―「風景」創刊号の巻頭を飾った、三木露風のことと考えられます。

山村暮鳥

本名は、木暮(後に土田)八九十、明治 17 年(1884 年)に群馬県に生まれた詩人です。

大正元年(明治 45 年・1912 年)9 月にキリスト教の伝道師として、平町(現いわき市平)の日本聖公会平講義所に赴任し、その仕事のかたわら、詩集『聖三稜玻璃』をはじめとした数々の作品を発表しました。

また、詩人・三野混沌らと親しい交友を持ち、大正 7 年(1918 年)1 月に、山村が水戸市に転任してからも続きました。

その後、山村は大正 13 年(1924 年)に結核のため亡くなり、昭和 59 年(1984 年)5 月には、いわき市文化センターに山村の詩碑が建立されています。

山村暮鳥 詩碑
山村暮鳥の長女が揮毫している。

『郷土文化』 創刊號　大正 12 年（1923 年）1 月　　作山喜作 // 編集　　郷土社 // 発行

発行所の「郷土社」は、郷土史家・諸根樟一が経営していた古書店です。

新聞「新いはき」(大正 14 年～15 年、全 14 号)の発行で一時休刊しましたが、その後再刊し、通巻 10 号(昭和 3 年)をもって終刊となりました。

創刊号の「環境を超破せよ」には、誌名について、「郷土」とする予定で準備をしていたところ、水戸で山村暮鳥らが同名の文芸誌を出版したことを知り、急遽「郷土文化」に変更したことが書かれています。

諸根樟一

諸根樟一(戸籍名は正一)は、明治 26 年(1893 年)、川部村(現いわき市川部町)に生まれた郷土史家です。

大正 11 年(1922 年)頃、平町で、自らの蔵書を元にして古書店「郷土社」開き、大正 12 年には『郷土文化』を創刊しました。この『郷土文化』存続のため、知識階級や著名人に働きかけ、「郷土文化会」を結成しました。その会員の中に、諸橋元三郎の名前もありました。諸橋は、その後の諸根の著作出版等に援助を行っています。

昭和 3 年(1928 年)には、12 月 30 日に発生した火災で郷土社が類焼し、それにより、『福島県政治史中・下巻』を始めとする未刊行の原稿や、諸橋が保証人となって、飯野八幡宮より借り受けていた近世文書が焼失してしまいました。諸根は、印刷所にあったため焼失を免れた『福島県政治史 上巻』等を出版し、昭和 5 年(1930 年)、京文社に職を得たこと等から上京しました。

その後も著作の出版を続け、昭和 26 年(1951 年)9 月に亡くなりました。

『路傍詩』 2　大正 15 年（1926 年）　編集者・発行所不明
『路傍詩』 10　大正 15 年（1926 年）12 月　高瀬勝男・松本純一 // 編集　路傍詩社 // 発行

■「路傍詩運動」と『路傍詩』

「路傍詩運動」とは、詩人の高瀬勝男・松本純一・石川武夫らが、街頭に詩を書いた紙を貼り出して始めたものです。

大正 15 年 1 月 13 日の『常磐毎日新聞』で「不穏な文書」として報じられ、警察が動く事態となりました。しかし、同年 1 月 16 日の同紙で誤解が解けたことが報じられ、その後、『路傍詩』は雑誌として発行されるようになりました。『路傍詩 2』は片面にのみ印刷されていますが、その後、冊子体になっています。

展示資料
『常磐毎日新聞』大正 15 年 1 月 13 日
『常磐毎日新聞』大正 15 年 1 月 16 日

『RRR』 壹輯　大正 15 年（1926 年）5 月　小林 直人 // 編集　ルルル社 // 発行

猪狩満直ら、詩誌の『播種者』・『路傍詩』・『乾杯群』に参加した詩人たちが出した合同誌です。創刊号の後記には、「ハンシユシヤと乾杯群と路旁詩とが眼であり鼻であり口である　三つのリズムが集まつて空氣になつた」と書かれています。

昭和時代 戦前

『詩南車』 第拾七輯　昭和 3 年（1928 年）6 月　片寄耿二 // 編集　詩南社 // 発行

昭和 2 年に創刊され、詩・短歌・随筆等を掲載しています。第 17 集「編輯後記」により、この第 17 集から印刷方法が活版印刷へ、また編集者・装丁も変更されたことがわかります。昭和 8 年の第 30 集まで発行されました。

『突』1　昭和 2 年（1927 年）6 月　三野混沌 // 編集　突社 // 発行

「突」には、三野混沌・猪狩満直・中野勇雄等、平町近郊の詩人たちが作品を発表しています。創刊から 2 ヵ月後に発行された「突 2」で終刊となりました。

『無軌道』 創刊號　昭和 3 年（1928 年）3 月　三野混沌 // 編集　無軌道社 // 発行

詩や俳句や小説等、多様な作品が掲載された文芸誌です。三野混沌や猪狩満直といった『突』と同じような顔触れで創刊されました。

『一九三〇年』 第一巻 第一輯
昭和 5 年（1930 年）1 月　相場虔一郎 // 編集　一九三〇年社 // 発行

詩や短歌等が掲載された文芸誌です。第 1 巻第 1 集には、『路傍詩』に参加した、高瀬勝男や松本純一が、同第 3 集には、三野混沌が寄稿しています。

■ 三野 混沌

本名は吉野義也、明治 27 年(1894 年)、石城郡平窪村(現いわき市平下平窪)に生まれた詩人です。妻は、作家の吉野せいです。

大正 3 年(1914 年)、清光堂書店分店(平掻槌小路)で、平に赴任していた山村暮鳥と出会い、親密な交友を続けました。

その後、好間村(現いわき市好間町)の菊竹山で開墾生活を送りつつ詩作を行い、『突』や『無軌道』の編集を担当したほか、『路傍詩』・『一九三〇年』・『Platanus』等、多数の文芸誌に作品を発表しています。

『海岸線』 1　昭和 6 年（1931 年）1 月　石川武夫 // 編集　海岸線社 // 発行

編集者の石川武夫による「雪解けの記」には、当初は島田春夫が中心となって創刊するはずでしたが、編集途中で島田が上京することになり、編集作業は石川に引き継がれたとあります。石川が、「若し島田君が帰つてくればいつでも私は一切を君におまかせする積りでゐます。」と書いているように、「海岸線 2」の編集は、島田が担当しています。

『Platanus』 創刊號　昭和 7 年（1932 年）10 月　蛭田壽 // 編集　プラタナス社 // 発行

詩や随筆等が掲載された文芸誌です。三野混沌が詩を寄稿しています。

『真道』 創刊號　昭和 9 年（1934 年）3 月　中村清次 // 編集　真道社 // 発行

日本基督教団 磐城教会の機関誌で、昭和 12 年 3 月号まで続きました。誌名について、編集者の中村清次(月城と号した)の長男・中村浩による『沙羅の雨　中村月城追悼記』には、「神道とロゴスとをかね合わせての意である。父は人が「しんどう」と云うと「しんとう」ですと訂正を迫った。」と書かれています。

展示資料　『沙羅の雨　中村月城追悼記』　[昭和 37 年（1962 年）]　中村浩 // 編集　発行所不明

『野麦』 第一輯　昭和 12 年（1937 年）5 月　野本孝雄 // 編集　マルトモ柴田書店 // 発行

詩・短歌・俳句等が掲載された文芸誌です。第 1 集に掲載された座談会「われらの同人雑誌時代」は、石川武夫・片寄耿二・高瀬勝男・中野勇雄・松村清・佐々木顕・島田春雄が、いわき地域の文芸誌発刊の思い出を語っています。

■ マルトモ柴田書店

『野麦』を発行した、マルトモ柴田書店(店主：柴田徳二)は、平町(現いわき市)四町目で書籍・雑誌・文具商の看板を掲げていました。昭和 5 年(1930 年)に店舗が 3 階建てに建て替えられ、大ホールや食堂も設置されました。また、『野麦』のほかにも、『無軌道』を発行した「無軌道社」が置かれるなど、雑誌等の出版にも関わりました。

昭和 20～30 年代

『白鷺』 創刊號　昭和 20 年（1945 年）12 月　佐々木与三郎 // 編集　白鷺書道会 // 発行

白鷺書道会の書道誌で、一時期、誌名を『博雅』としていましたが、『白鷺』に戻りました。編集者の佐々木与三郎は、白鷺書道会の主宰で、秋峰(後に坡唐)と号しました。

『好間思藻』一月號　昭和 26 年（1951 年）1 月　前仏清 // 編集　好間思藻編集部 // 発行

昭和 21 年(1946 年)に創刊された文芸誌です。古河好間砿業所の従業員の教養向上のために発行されました。編集者の前仏清は、庶務課課長でした。

『AMPC (American Motion Picture Club)』No.13

昭和 23 年（1948 年）11 月　川崎五朔 // 編集　AMPC 発行所 // 発行

昭和 22 年に創刊した、AMP クラブの機関誌です。アメリカ映画に関する情報や創作物を掲載しています。AMP クラブの会長は、無声映画の俳優として人気を博した鈴木伝明(戸籍上の出生地はいわき市泉町)です。

『文祭』 第 2 號　昭和 22 年（1947 年）6 月　河内潔士 // 編集　文祭社 // 発行

詩や小説等を掲載した文芸誌です。編集者の河内潔士(小説家・脚本家、別筆名 川内康範)は、終戦直後から約 4 年間、現在のいわき市に暮らしました。『文祭』は、その間に同年代の菅田甫や芳賀他郷らと創刊されました。

『緑の郷土』 創刊號　昭和 24 年（1949 年）12 月　緑の郷土社 // 編集・発行

緑化運動の機関誌として発行されました。創刊号には、平市(現いわき市)市長・鈴木辰三郎や、三猿文庫主・諸橋元三郎の書いたものが掲載されています。

『石城文化』創刊號　昭和 26 年（1951 年）6 月　真尾悦子 // 編集　石城文化社 // 発行

小説・詩・俳句・コラム等が掲載された文芸誌です。編集者の真尾悦子は「私の信条」欄や「編輯手帳」を担当し、夫の真尾倍弘は、表紙絵と「石森山人」の筆名でいわき地方の伝説を書いています。

『月刊いわき』創刊号　昭和 32 年（1957 年）6 月　真尾倍弘 // 編集　氾濫社 // 発行

内容のほとんどを、読者から寄稿された作品で構成した文芸誌で、昭和 36 年(1961 年)の通巻第 20 号まで続きました。真尾倍弘が担当した後記欄は、通巻第 7 号から「たった二人の工場から」という名前に変更されており、真尾悦子の著作、『たった二人の工場から』の題名はここからとられたものです。

展示資料　『たった二人の工場から』　昭和 34 年（1959 年）8 月　真尾悦子 // 著　未来社 // 発行

■真尾夫妻と氾濫社

真尾倍弘(詩人)・悦子(作家)夫妻と長女は、昭和 24 年(1949 年)に平市(現いわき市)に移住してきました。同 26 年には、『石城文化』を創刊します。

同 31 年、新しく雑誌を創刊したいと考えていた倍弘は、三野混沌の「自分ンのとこで印刷ができれば、これはもう、まちがいなく出せるんだがなァ！」(真尾悦子『たった二人の工場から』より)との一言により、借金をして印刷機を購入し、自宅で出版社「氾濫社」を立ち上げました。

翌年には、氾濫社より『月刊いわき』を創刊、また、地域の人々の随筆や詩集、句集等も印刷しました。

昭和 37 年(1962 年)、氾濫社は、建物の屋根が藁だったことが消防条例に違反することから取り壊すことになり、真尾一家は、転居先が見つからず上京することになりました。

『磐城史談』第 4 巻第 1 号(通巻第 6 号)　昭和 32 年（1957 年）7 月　磐城史談会 // 編集・発行

磐城史談会の機関誌で、昭和 28 年(1953 年)に創刊し、通巻第 7 号まで発行されました。

磐城史談会は、第 9 代磐城高校校長を務めた山森正一を会長とし、昭和 22 年(1947 年)に結成され、古墳や古文書等の研究調査を行っていました。

『イワキグラフ』新春創刊号

昭和 34 年（1959 年）1 月　斎藤伊知郎 // 編集　イワキグラフ社 // 発行

副題に「人物風土記」とあるように、いわき地域の人物について多く掲載されています。

新春創刊号の「編輯後記」によると、「イワキグラフ」という誌名は、「グラフペン」、「グラフ窓」、「プリンスグラフ」といった候補の中から選ばれたことがわかります。

■斎藤伊知郎

大正 8 年(1919 年)、平町(現いわき市)に生まれました。

戦後、河北新報や福島民友新聞記者を経て、昭和 41 年(1966 年)4 月、いわき短期大学設立に際して、同大学設立委員として参画しました。その後は、同大学地域経済研究所所長も務めています。

また、いわき地域の近代史を中心とした著作を多数出版しており、昭和 54 年(1979 年)には『諸橋元三郎　その人間と周辺』出版、昭和 58 年(1983 年)には、その前年に出版された『坂下門外の変　閣老安藤対馬守信正の記録』が第 6 回福島民報出版文化賞を受賞しています。

展示資料　『諸橋元三郎 その人間と周辺』　昭和 54 年（1979 年）8 月
斎藤伊知郎 // 編集　　諸橋元三郎〈その人間と周辺〉刊行会 // 発行

昭和 40～50 年代

『いわき地方史研究』創刊号　昭和 40 年（1965 年）8 月　いわき地方史研究会 // 編集・発行

いわき地方の歴史等を研究する、いわき地方史研究会の機関誌として創刊されました。現在も年 1 回の発行が続いており、令和 2 年 1 月時点で、第 56 号をかぞえています。

『いわきの文化』創刊号　昭和 44 年（1969 年）4 月　いわき文化学会 // 編集・発行

いわき地域の歴史や文化についての論考等が掲載されています。表紙は、いわき市出身の版画家・坂本勇の作で、「埴輪男子胡座像(国指定重文)」と「中田横穴(国指定史跡)装飾壁画」が描かれています。

『川柳 家』11 号　昭和 46 年（1971 年）1 月　いわき番傘川柳会 // 編集・発行

昭和 42 年(1967 年)に創刊された川柳専門誌です。いわき番傘川柳会の創立 10 周年記念大会開催を機会に創刊されました。現在も発行されており、令和元年 12 月時点で、588 号をかぞえています。

『PeBe(ぺえべえ)』創刊号　昭和 51 年（1976 年）8 月　加藤隆行 他 // 編集　らんる社 // 発行

いわきのタウン誌として創刊されました。表紙は、PeBe 第 10 号まで連載された「長靴対談」の聞き手を務めた、画家の松田松雄が描いています。

『6 号線』第 5 号　昭和 52 年（1977 年）6 月　佐藤久弥 // 編集　尼子会 // 発行

昭和 50 年(1975 年)に創刊された文芸誌で、半年に 1 冊、発行されました。第 5 号の表紙絵は、いわき市出身の日本画家・大平華泉の作です。昭和 62 年(1987 年)に、前年に亡くなった、『6 号線』発行者・蓬莱信勇の追悼記念号として、第 24 号が発行され、これをもって終刊となりました。

平成 2 年(1990 年)には、『6 号線　私家版』として小冊子が発行されています。

また、創刊号から、文学賞「三猿文庫賞」を創設し、その受賞作品を掲載しています。

■ 三猿文庫賞

三猿文庫賞は、三猿文庫主・諸橋元三郎が提供し、雑誌『6 号線』の創刊と同時に創設された文学賞です。終刊までに 15 回行われ、23 名が受賞しており、第 3 回の受賞者として、真尾悦子の名前がみえます。

賞金は、当初 5 万円でしたが、第 8 回より 10 万円となり、副賞に時計がつけられました。

『6 号線』第 20 号では、賞の名称決定の経緯について、発行者の蓬莱信勇によって語られており、はじめは、「芥川賞」のような文学賞をとの考えから、「諸橋元三郎賞」とする予定でしたが、名前は出さないでもらいたいとの諸橋本人の希望により、「三猿文庫賞」となったということがわかります。

『文芸いわき』創刊号

昭和 52 年（1977 年）11 月　芳賀他郷 // 編集　じょうばん市民ペンクラブ // 発行

随筆・短歌・俳句・紀行文等の様々な作品が掲載された文芸誌です。じょうばん市民ペンクラブの目指す「市民雑誌」という目標のとおり、常磐地区を中心とした「市井の人々の作品」が多数掲載されています。

『詩季』第二号　昭和 55 年（1980 年）7 月　芳賀他郷 他 // 編集　詩季の会 // 発行

昭和 55 年 1 月に創刊された詩の同人誌です。同人の作品の他に、三野混沌や日野利春といった、いわき地域の詩人の未発表作品等も掲載しています。創刊当時の同人には、氾濫社の真尾倍弘がいました。

平成 17 年(2005 年)7 月時点で通巻第 52 号をかぞえています。

参考資料

『いわき市史　第６巻 文化』	いわき市史編さん委員会 // 編	1978	K/210.1-1/ｲ
『福島県人物・人材情報リスト 2019』	日外アソシエーツ // 編	2018	K/281/ﾌ-2019
『三猿文庫　諸橋元三郎と文庫の歩み』	いわき市立草野心平記念文学館 // 編	2001	K/090/ｻ
『諸橋元三郎　<その人物と周辺>』	斎藤伊知郎 // 編	1979	K/289/ﾓﾛ
『昭和戦前のいわき　詩風土の開花』	いわき市立草野心平記念文学館 // 編	2002	K/911.5/ｼﾌ
『山村暮鳥研究』	和田義昭 // 著	1968	K/911.5/ﾜﾀﾞ
「諸根樟一小伝 (1)～(3)」	永山義明 // 著		
(『いわき地方史研究 第６～８号』	いわき地方史研究会 // 編	1969～1971	K/210.0-1/ｲ)
「三猿文庫とその周辺」 (『6 号線　20 号』	佐藤久弥 // 編	1984	K/910.5/ﾛｸ)
『三野混沌』	いわき市立草野心平記念文学館 // 編	2000	K/911.5/ﾐﾉ
『土と修羅　三野混沌と吉野せい』	新藤謙 // 著	1978	K/910.2/ﾐﾉ
『真尾倍弘・悦子展　たった二人の工場から』	いわき市立草野心平記念文学館 // 編	2004	K/910.2/ﾏｼ
『たった二人の工場から』	真尾悦子 // 著	1959	K/916/ﾏｼ
『佐々木坡唐の書業』	金田石城 // 編	1976	K/728/ｻ

令和２年(2020 年)１月９日　発行

■編集・発行　いわき市立いわき総合図書館

令和元年度 後期常設展「三猿文庫 開設 100 年記念　郷土雑誌の逸品たち」

■会期　令和２年(2020 年)１月６日(月)－６月 14 日(日)

■会場　いわき総合図書館 ５階 地域資料展示コーナー